P2-1　作業療法士の教育体制の確立を目指して ～OJTの実践より～

○松本 宏昭（OT），本村 圭司（OT），小池 美帆（OT），長谷 邦彦（OT），
小林 賢二（PT），西村 瞬（PT）

医療法人双葉会 西江井島病院

Key word：教育，作業療法

【はじめに】昨今，セラピストの急増や社会的なニーズにより，臨床での教育の見直しがされている．日本作業療法士協会（以下，協会）は，2018年3月に「作業療法教育ガイドライン第1版（2015）」を基に「作業療法臨床実習指針（2018）」を示した．これらの背景より，セラピストの教育の見直しが急務とされている．当院リハビリテーション科では2018年4月より教育部を立ち上げ教育体制の再構築を試みている．作業療法課（以下，OT課）においては，既存の教育体制に加え，新たにOn the Job Training（以下，OJT）を実践したため，以下に報告する．なお，発表に際し当院倫理委員会の承認を得ており，COI関係はない．

【目的】OT課におけるOJTの実績を振り返ることで，今後のリハビリテーション科およびOT課の教育体制について検討する．

【方法】当院OT課のOJTは，協会の生涯教育基礎研修修了者をOJTの指導者の条件とし，指導の質を担保した．指導者は5名，経験年数は12.8±3.6年，OJTを受ける者（以下，被指導者）は17名，経験年数は6.3±5.0年であった．2018年5月から2019年1月までのOJTの実績をまとめたExcelのデータを分析する．データの項目は，指導件数，指導1回の単位数，疾患（脳血管，運動器，廃用），患者，指導者，被指導者，被指導者の経験年数，指導内容（運動機能，認知機能，基本動作，リスク管理，ADL，I-ADL，情報収集，物的環境，作業活動，面接，訪問リハ，高次脳機能，精神面，ポジショニング，ストレッチング），指導形態（評価，介入，統合・解釈），備考とした．患者，指導者，被指導者の情報については匿名化し配慮した．なお，指導内容と指導形態は複数回答可能とした．

【結果】指導件数は98件，指導1回の平均単位数は2.8単位，疾患は脳血管69%，運動器17%，廃用14%，被指導者の経験年数毎の指導件数の割合は，5年目以下で97%，5年目以上で3%．指導内容の件数は，運動機能60件，認知機能19件，基本動作46件，リスク管理25件，ADL31件，I-ADL3件，情報収集13件，物的環境6件，作業活動0件，面接12件，訪問リハ2件，高次脳機能6件，精神面3件，ポジショニング3件，ストレッチング3件．指導形態の件数は，評価54件，介入62件，統合・解釈18件であった．

【考察】上記結果より，OJTの大半は経験年数5年目以下の職員へ行われており，5年目以上では3%とOJTが実施されていない現状がある．そのため，経験のある職員へのOJTを増やしその効果について検証する必要がある．OJTでは「指導者の能力に大きく依存する」「学習意識が生まれにくい」等のデメリットがあり，Off the Job Trainingで補完する等の検討も並行して進める必要がある．また，クリニカルラダー制度の中での位置づけ，指導者の条件を決めレベルを一定にすること，指導者や被指導者の意見の調査等が今後の課題として挙がる．引き続き，教育体制の確立にむけて取り組んでいく．